

団体名	公益財団法人 石川県国際交流協会							
事業名	世界農業遺産「能登の里山里海」探訪バスツアー							
実施期間	2016年11月26日(土)							
場 所	能登(主に輪島市)							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	44名	2名	1名	4名	3名	0名	0名	54名

<実施内容>

50人のツアー参加者全員の願いが天に届いたのか、北陸の冬にしては珍しい晴れの1日。私たちは金沢から一路バスで能登半島に向かいました。

最初の訪問地は「輪島キリコ会館」。キリコとは大きな灯籠(とうろう)のことで能登のお祭りには欠かせないもの。大小さまざまなキリコをバックに解説員から説明を受けた後、間近に見るキリコの迫力に圧倒されながら、展示を見て回りました。

食事は能登の名産「いしる(魚やイカで作られたしょう油)」で味付けしたもの。お刺身や天ぷらに加え、能登で一般的な茶碗豆腐(茶碗の型に入れて作る半球体の豆腐)も提供されました。

急斜面に1004枚の小さな田が広がる「白米千枚田」を鑑賞した後は「揚げ浜式」と呼ばれる海水を利用した塩田を見学。日本では唯一能登にのみ残っている製塩法です。そこでは実際に水をまいたり、海水をくむ桶をかついだりしました。塩を作る過程で取れる「にがり」(豆腐を固める時に使う)を味見した面々は一様に顔をしかめていました。

次に、地元でお茶や入浴剤として使用されてきた「わたふじ」という植物を使っの「草木染体験」。ハンカチ作成にあたりご指導いただいた地元の方々からは日本人よりフレンドリーで楽しかったという感想をいただきました。

「能登は優しや土までも」という言葉がありますが、参加したメンバーから「地元の人たちは優しかった」という声を多々耳にしました。守り伝えられてきた祭礼や伝統技術、美しい景観、豊かな生物資源など世界農業遺産に登録された能登の一部を見て、触れて、味わって、感じる事ができた旅でした。

<記録写真>



キリコ会館」で解説員から説明を受ける

「揚げ浜塩田」で水撒き体験

草木染め体験終了後、記念撮影

<参加者からのコメント>

魚住さん(日本)/Mr.Uozumi (Japan)

フィルマンさん(インドネシア)/Firman (Indonesia)

金沢大学に入学し4年目になりますが、今まで能登を訪れたことがありませんでした。世界農業遺産に登録されている能登の文化や魅力に触れることができ良い体験となりました。

また、普段一緒に生活している留学生たちの新たな一面も見ることができ、お互いの理解を深めることができましたと感じています。

今回、解説員の説明を英語に訳すという任務もあり、自分のつたない英語で伝えられたか、心配ではありますが、有意義な時間であったと思ってくれれば嬉しいです。

一番印象に残ったのは「キリコ会館」です。たくさんのキリコが展示されており一つ一つがとても重そうでした。キリコを実際に動かして行うお祭りを目の前で見てみたいと思いました。

バスの中でバスガイドさんが説明しビデオを流してくれた御陣乗太鼓(ごじんじょうだいこ)にも興味を持ちました。上杉謙信が能登半島に押し寄せてきた時に、夜、仮面をかぶり太鼓を鳴らして対抗したという話はとても面白かったし、ビデオで流れる映像はとても迫力があり怖さもありました。次回は御陣乗太鼓を見たいです。